

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	塩原 暖	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	オックスフォード・ブルックス大学		
国・地域	イギリス		
派遣期間	2024 年 9 月 ~	2024 年 12 月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
World at War: A History of the First World War	欧米諸国が経験した第一次世界大戦について経済、社会、文化など様々な側面から学ぶ。
The Early Modern State	近代ヨーロッパにおける国家形成のプロセス、重要な要素、その変動などについて学ぶ。
The Making of Modern Britain, 1815-1997: Institutions, Identities, Interests'	19 世紀初頭から第二次世界大戦後までのイギリスの政治、社会、文化アイデンティティについて学ぶ。
A People's History of Britain	18, 19 世紀イギリスにおける個人や家族の歴史を階級・消費・ファッションなどの視点から議論する。
Essential Academic Language and Communication	アカデミックエッセイの書き方について学ぶ。エッセイを書き方のみならず、その後フィードバックをもらい、修正する所まで指導を受けることができる。

留学レポート(1,500 字以上)

4 か月という短い留学期間であったが、非常に充実した経験となった。まず授業面では、すべての科目において講義とセミナーの時間が設けられており、学びの理解度は大いに高まった。私は英国を中心とした歴史の科目を履修した。しかし、これまで英国の歴史を学ぶ機会が少なく、知識が乏しい状態であったため、毎授業の予習を欠かさずに行った。また、どの科目も予習として読まなければならない文献があり、最初は特に苦労した。初めての 2 週間程度は英語の文献を読むことに慣れておらず、内容を理解することに非常に時間がかかったが、徐々に英文を読むことに慣れていき、予習の時間は短くなっていった。この経験から、留学前にもっと英語の文献に慣れておくべきだったと感じた。セミナーでは他の学生や教授とのディスカッションを通じて講義に対する理解を深め、追加の知識を得ることができた。私が履修した科目はどの科目も留学生が 2, 3 人程度であったため、ほとんどのディスカッションは現地の生徒と議論した。英国史に関する知識を多く持っている現地の生徒たちから学ぶことは多く、とても貴重な機会であった。一方で、特にグループディスカッションでは自分の意見も積極的に発言する必要があり、日常会話とは異なる学問的な会話の難しさを痛感した。何度も自分の英語力不足に失望したが、諦めずに伝えたいことを正確に表現できるよう、毎授業発言することを心掛けた。さらに、最も印象に残ったことは、教授とのチュートリアル制度である。これは任意のものであるが、授業を担当する教授と個人面談を行い、授業内容や課題についての相談をすることができる。私は、課題に対して不安を感じていたため、この制度は非常に役立った。エッセイの構成や使用する文献に対して具体的なアドバイスを受けたことで、エッセイの内容もより深みのあるものとなった。その上、教授と面談を行ったことで授業への意欲も一層高まった。

次に、生活面として、オックスフォードは非常に住みやすい街であった。学校から徒歩圏内にカフェやスーパーが立ち並んでおり、バスで 10 分ほど行くと歴史的な街並みの市街地があった。バスは最初に 10 ポンド払えば乗り放題であったため、平日でも市街地に出かけることが多かった。市街地にもスーパー、薬局、レストランなど豊富にあり、不便さを感じる部分は全くなかった。クリスマスシーズンであったことから街は賑わっており、夜も人

通りは多かった。寮は大学から徒歩 5 分程度の場所にあり、とても快適であった。また、4 人のルームメイトたちと楽しく過ごすことができた。皆それぞれ異なる国から来たため、自分の国の料理を振舞ったり、カードゲームを教え合ったりして文化交流を楽しんだ。また、ロンドンやバースに遊びに行って仲を深め、課題で大変な時期は互いに励まし合いながら乗り越えた。

さらに、大学が主催するイベントやソサエティーの活動にも積極的に参加した。たとえば、毎月行われるツアーイベントでは、ウェールズやケンブリッジなどに初めて訪れた。それぞれ街の雰囲気異なり、街を歩くだけでも楽しく、良い思い出となった。半年留学であったため特定のソサエティーに所属できなかったが、香港ソサエティーの月餅作りのイベントや日本ソサエティーのピクニックなどにも参加した。これらのイベントは、異文化理解の促進にもつながり、友人も多くできたため、積極的に参加して良かった。

このように、セミナーやチュートリアルによるサポートが学びを高め、生活する環境も快適であったため、非常に有意義な時間を過ごすことができた。留学前は学業面で少し不安を抱いていたが、周りのサポートを受けながら授業も課題もしっかりと取り組むことができ、留学に行っても良かったと感じている。また、ルームメイトとの関わりや観光など、様々な場面で異文化を体験でき、新たな視点や学びを得られた。

留学中の写真(5 枚程度) ※写真のキャプションも入れること



ラドクリフ・カメラ(オックスフォード)



オックスフォードの街並み



初雪の際の寮



ティンターン寺院(ウェールズ)



月餅作りで作成した月餅